

平成クローゼット 11年

ギャル 女の子を意味するgiriのアメリカのスラングの発音から生まれた言葉。日本では、1970年代頃から使われ始めた。

▶ 1999年 ガングロ

肌 をとんでもなく黒く焼き、白いアイシャドーや白い口紅を厚塗りする。原色のド派手な服装に身を包み、金髪を振り乱す。顔色の黒さから「顔グロ」と呼ばれた彼女たちは一九九〇年代後半、東京・渋谷を発信源に時代を席巻し一九九九年には流行語として市民権を得た。九五年創刊のギャル雑誌egg(エッグ)の元編集長、根津一也さん(右)は振り返る。「彼女たちは自分のしたいことを忠実に表現してただけ。周りの大人に何を言われても関係ない。ぶっ飛んだ強さがあった」

「や」 つばり安室ちゃんのファッションがカワイイと思ったのがきっかけかな。元ギャルだった神野佳奈子さん(左)は今も明るい。九六年、安室奈美恵がレコード大賞を受賞するなど、安室をまねた「アムラー」は一大ブームに。ギャルが一つの集団として注目を集める時代が始まった。神野さんも、日焼けサロンで肌を黒くし、茶髪で厚底ブーツをはきながら、自分たちも若いころから消費社会



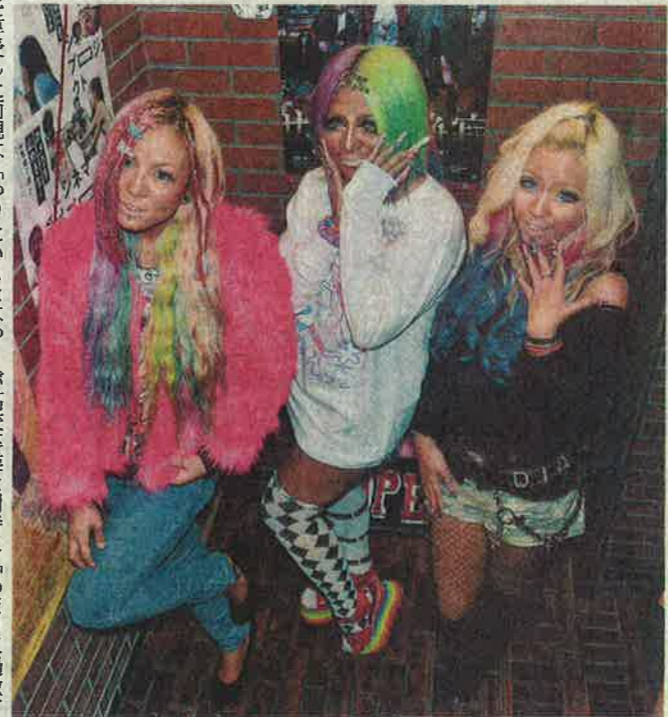
before

神野佳奈子さんが女子高生ギャルだったころ。今は野菜ソムリエになった神野さん(川崎市麻生区)

after

より黒く より強く

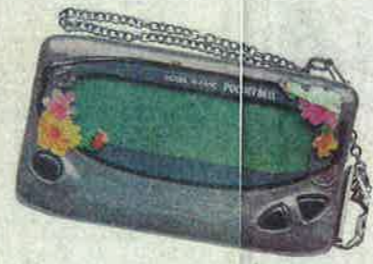
ガングロカフェでは独特のアイメークも再現



ガングロカフェの店員たち。中央が「りもん」さん(渋谷区)

を享受した両親は「やりたいことはやりなさい」という考えで、娘の風貌に口を出すこともなかった。プリクラや携帯電話、たまごっちなど、女子高生ギャルが夢中になれる商品が次から次に生まれたのも、この時期だった。高校生のマーケティング会社「ブームプランニング」(渋谷区)の中村泰子社長(左)は「モノが売れなくなると、正解が見えない時代の中で、多くの企業が女子高生の意見を聞きながら」と話す。

よ り黒く、より強く、誰よりも個性的に目立ちたい欲望の行く末は過激化だった。ガングロを通り越し、さらに黒い「ロングロ」や髪の毛を銀髪にした「ヤマンバ」と呼ばれるスタイルも現れた。「気持ち悪い」と男ウケが悪くても気にしない。奇妙で奇抜な姿は世界も「日本の不思議」として注目した。だが、その陰りもあつという間違った。神野さんを含め、多くの女性たち



神野さんが愛用していたポケベル

が高校卒業と同時に「あまりに過激すぎて、もうついていけない」とギャルも卒業した。神野さんはその後、野菜ソムリエの資格を取り、今は一児の母だ。二〇〇〇年には美白ブームという逆風も吹き始める。だがエッグ元編集長の根津さんは、ガングロ消滅の理由としてそれ以上に大きかったのはIT化の波だとみている。

ガングロは今、ストリートではなく店内にいる。渋谷の繁華街にある通称ガングロカフェ。二〇一五年に店を開いた浅野毅社長(左)は、かつては茶髪などギャルの男性版ファッションに身を包んだ元「ギャル男」。ギャル文化を歌舞伎に重ね、「歌舞伎者」を基本には不良文化で、世間がそれを求めた。ギャルも同じ。ギャル文化が歌舞伎みたいに伝統文化になるかもしれない。今後どうなるかは誰も分からない。

一九九〇年代半ば以降、インターネットが普及し、ブログ、電子メールなどが普及する。ネットでは、自由奔放なガングロたちを「下品だ」などと攻撃し、排除する風潮が生まれた。「結局、社会が求める像に落ち着かざるを得なくなったのでは」。根津さんは、二〇〇二年から、エッグ編集部を外れていた。七年後に編集部に戻った時の空気の違いをよく覚えている。「九〇年代後半のガングロたちは、みんなその格好を、やりたいからやってた。でも、十年たったら、ギャルは職業になってた」。安室奈美恵のような絶対的なカリスマが消え、皆が同じ流行を追うことになった。ブログや、今ならインスタなど時々のやりの手段で発信して、それが人気を集めればイベント出演などの収入源にもつながる。「小さなカリスマ」が群雄割拠する時代となり、今に至る。

欲望全開…「安室」後は下火に

◆平成ギャル年表◆

- 1994年(平成6) ◆携帯電話の普及が始まる ◆小室哲哉氏による楽曲が人気を集め、「小室ブーム」
- 95年 ◆ギャル系雑誌「egg」創刊 ◆プリクラが登場
- 96年 ◆安室奈美恵がレコード大賞 ◆アムラー、ルーズソックス、チョコベリクなどが流行語に ◆ポケベルが最盛期を迎える
- 97年 ◆安室奈美恵が結婚、妊娠、産休 ◆携帯型育成ゲーム「たまごっち」がブームに
- 98年 ◆ヤマンバが登場 ◆一部のガングロがさらに日焼けしロングロに変化 ◆浜崎あゆみがデビュー
- 99年 ◆「ガングロ」が流行語 ◆「2ちゃんねる」創設 ◆携帯電話がインターネット接続可能に
- 2000年 ◆バラバラがブームに ◆美白が注目され始める
- 01年 ◆浜崎あゆみがレコード大賞受賞 ◆写メール流行
- 03年 ◆地元商店街関係者が中心となって渋谷センター街パトロール隊結成
- 05年 ◆倅田来未人気が「エロかつこい」に脚光 ◆第1回東京ガールコレクション開催
- 06年 ◆フリ帳(プリクラ手帳)の販売停止
- 08年 ◆ツイッター、フェイスブックの日本版スタート
- 14年 ◆egg休刊



文・木原育子/写真・池田まみ、安江実、由木直子/紙面構成・北村麻紀

T 読